



日野原重明記念

「新老人の会」東京 会報

Keep on going!

Vol.2/No.1

2020.1

発足二年目を迎えるにあたって

世話人代表 石清水 由紀子

新年

おめでとうございます

今年、日野原重明先生が二〇〇〇年に「新老人運動」を提唱し、「新老人の会」を発足されてから二十一年の節目を迎えます。

当会はライフ・プランニング・センターから独立した組織として活動を開始して一年が経過しました。この間に、全国各地にお住まいの方も含めて約五〇〇人（四〇〇件）の方々が会員となつて、大きな力を与えていただきました。

当会の特徴は、日野原先生が提唱された「新老人運動」の三つのモットー、一つの使命のもと、五項目の行動目標に沿って活動し、戦争のない平和で暮らしやすい社会を希求していくところにあります。

日野原先生は百歳を過ぎてから、この思いをますます鮮明にされ、全国各地での講演テーマに「いのちを守り平和を築く」、「平和と

命こそ」などを掲げてお話しされました。また、先生にとつて最後となったジャンボリー東京大会では「平和への思いを一つに―国境を越えて、民族を超えて、いのち輝けー」と呼びかけられました。

この軸を外れることなく質の高い活動をしていくことが、「新老人の会」の存続意義であると思つております。

一年の活動を振り返りますと、六月二日に湯川れい子さんをお招きして「発足記念フォーラム」を成功裏に開催しました。そして、「会員の集い」を五回、健康講座、社会に貢献する活動として「いのちの授業」や「患者ボランティア活動」を、教育現場の要請を受けて実施しました。さらに、朗読会「語り継ごう あの日の頃」、十八種のサークル活動も継続し、これらを予告し、報告する「会報」を三ヶ月毎に発行しました。

新年度は、世話人会の組織を有機的にすること、さらに魅力ある活動を増やし、より多くの方々に参加していただけることを目指しております。

現在いる十七人の世話人は、さまざまな事情を抱えながらも、ボランティアで会の運営責任を負い発展に努めています。

今年も、皆さまのご理解とご協力を心よりお願いいたします。



日野原先生アーカイブス

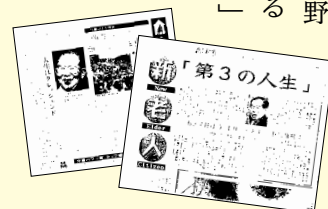
二〇〇〇年六月六日、読売新聞に日野原先生が「新老人運動」を提唱している記事が大きく掲載され、「新老人の会」が誕生する発端となりました。

その三日前のこと、日野原先生から電話があり、「大事な話があるので今からそちらに行きます」と。先生はパワーポイントで制作した「新老人運動」の要旨を示して、WHOが六十五歳以上を高齢者としてきたことは十年底上げすべきであること、今七十五歳の人は終戦時に二十歳で、戦争を体験しており、戦争の真実と平和の大切さを伝える使命があるなど、「新老人の会」を発足する旨を力強く話されました。八十八歳の先生がこのような大仕事を創めようとする覚悟のほどが伝わり、身の引き締まる思いをいたしました。

記事が掲載された日は、全国各地から趣旨に賛同するとの電話が引きも切らず百件に達しました。反響の大きさに急遽、「新老人の会」発足に伴う日野原先生の講演会を九月三十日に聖路加看護大学ホールで開催することを決めました。



発足の当日、先生はいつになく緊張した面持ち、赤と紺のストライプ柄の勝負ネクタイが印象に残っています。新聞各紙が取材に訪れ、満席の会場は期待と熱気にあふれていました。



第1回よりよく生きるための健康講座シリーズ 「高齢を生きることの意味」

聖路加国際病院顧問 林田 憲明先生



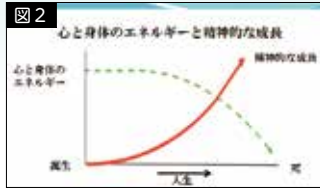
林田先生

日時：2019年11月21日(木)

先生はヴィクトール・フランクルが提唱したロゴセラピーを取り入れて日々の診療や電話相談をされています。ロゴセラピーの人間像は、「精神」は心と身体とは別の次元(図1参照)にあるという捉え方をします。



精神次元とは ①自分の心身態に対して自由な態度をとることができる能力、例えば男だから女だから患者だからというところを乗り越えられる力 ②自主的な決断 ③事象に対する興味・芸術的関心 ④創造的な創作 ⑤ユーモア ⑥倫理的な感覚 ⑦敏感な価値認識 ⑧意味を探し求める力 ⑨宗教性・スピリチュアリティ ⑩愛の十項目があるといわれています。心と身体のエネルギーは年齢とともに下がりますが精神的な成長は反対に上昇します。(図2参照) このことは高齢者にとっては希望でもあります。



六人の患者さんの症例から分かりやすく口

ゴセラピーを活用したお話しをされましたが、先生は指導ではなく自らが生きる意味、価値を見出せるように患者さんの「精神」に働きかけています。そして生きる意味を見出ししていくには精神性を強化すること、価値に対して敏感になることが大切と話されました。

価値には創造価値(人間が行動したり何かを作ったりすることで実現する)、体験価値(人間が何かを体験すること、芸術を鑑賞したり自然の美しさを体験することなどで実現される)、態度価値(相手に対して思いやりや配慮ができる態度)の三つがあります。

若いときには創造価値や体験価値を高めることは容易ですが、高齢になるとだんだん難しくなります。しかし、態度価値は年をとっても高めていくことができます。私たちの人生は一回性で唯一性であり責任性のあるものです。どんな状況の中でも自分の人生に「イエス」と言えるような意味のある人生を送りたいものです。林田先生は、患者さんを「診る」のではなく「話をする」といわれ、先生の温かみを感じられる時間でした。



報告

第5回「会員の集い」 『はじめての俳句』

日時：2019年10月24日(木)
場所：一番町進興ビル2階

飛鳥蘭先生(新老人の会) 東京世話人・沼田祥子(さん)は、有季定型の俳句を詠まれるとのこと。俳句は、例えば芭蕉の「古池や蛙飛びこむ水の音」のように日常生活に根づいているので、誰でも詠むことができます。万葉集に始まる和歌の時代から江戸時代の連歌までの系譜。明治に入り、子規が発句のみで意味ある句になることを発見し五・七・五の一七音からなる俳句を始めたこの歴史の話は、大変興味深いものでした。

また俳句結社「かつらぎ」所属の悠天さん(東京世話人・本多正之氏)が、著名俳人の句を例に俳句の楽しみ方もお話くださり、盛り沢山の内容でした。

俳句は「座の文学」とも言われ、詠み手が互いに評価し合うことでその場を楽しむもの。恥をかくことを恐れず、自分の見たもの感じたことを詠みましょうとの先生の言葉で、いよいよ作句の時間。楽しいひと時は、あつという間に終わりました。



子規の句を例に。悠天さん 選句する飛鳥蘭先生

サークル一覧

*初めてご参加される方はお問い合わせください。
TEL 080-7310-5050 (平日 10:00 ~ 15:00)

サークル名	会場	開催日	時間
源氏物語講読会	一番町進興ビル2F 会議室	第2木曜日	13:20~14:50
自分史		第2火曜日	13:30~15:00
丹田		第2・4火曜日	11:00~12:30
いきいき健康体操	通常どおり	第2・4木曜日	10:15~12:00
オリンピックで民間外交		第1・3月曜日	14:00~15:30
さっそうクラブ		第1・3火曜日	13:30~15:30
コーラス	トイスラーホール	月1~2回月曜日	10:00~11:30
うどんの会	八王子・他	随時	

サークル名	会場	開催日	時間
詩吟の会	向丘地域活動センター	第1・3金曜日	13:30~
初級英語 使える基礎再発見	港区生涯学習センター	第1・3水曜日	10:30~12:00
中級英語 会話力の再起動	港区生涯学習センター	第2・4火曜日	13:30~15:00
フラダンス	自由が丘スタジオ他	月・木曜日	通常どおり
何でも話そう 日曜昼食会	未定	第4日曜日	11:30~14:00
ハンドベル	用賀教会	第2・4金曜日	13:30~
吹矢	錦糸町・本部	第2・4金曜日	12:45~
大人のアート	未定		
初めての俳句	武蔵野プレイス3F	第3火曜日	13:30~
iPad交流会	武蔵野プレイス4F	第1金曜日	13:30~

「日野原重明文庫」公開記念講演会に参加して

日野原重明記念「新老人の会」大阪代表
三木 哲郎
「全国連絡会」副代表

琵琶湖の西岸、北小松にある滋慶学園「湖邸滋びわこクラブ」内に設立された「日野原重明文庫」の公開記念講演会が、日野原重明記念新老人の会「滋賀の会」主催で令和元年十月十三日(日)、

台風に陸で断念した会員が多いなか、滋賀県内から五十名、県外から約八十名が参加し開催されました。日野原先生の蔵書(約四五〇〇冊)と、書齋の一部(愛用の机、ワープロや筆記用具類)が展示された「日野原重明文庫」は、



三木先生

今後、米国ニューヘブレン「ホイットフィールド・万次郎友好記念館」に匹敵する文庫になると考えます。

記念講演では、嘉田由紀子世話人代表が日野原先生と琵琶湖との繋がりを、日野原眞紀さんが「最後まで自分らしく生きられた日野原先生」、角野文彦先生から「滋賀県の健康長寿日本一は社会参加から」、松下唯夫先生から「モンゴル人の自然・健康法」についてお話を伺いました。

昨年十月一日から「新老人の会」は、全国三十三カ所で旧支部を基盤とする独立した組織になりました。これら各会の連携を保つため組織された「全国連絡会」を中心に、これまでのジャンボリーのような集まりを地方で、学会形式の集まりを東京で交互に開催してはどう

か、台風のため欠席された小山代表の代理のご挨拶で、私はそう提案しました。



日野原重明文庫



続いて「文庫」の隣に位置するラウンジにて夕食交流会。琵琶湖の広大な風景を眺望し、「滋賀の会」の皆様のおもてなしのなか、自己紹介や各会の様子など楽しく語り合いました。

※「全国連絡会」(代表・熊本の小山和作、副代表・奈良の吉田修、千葉の植村研一、大阪の三木哲郎、事務局長・石清水由紀子の各氏)

サークル紹介 コーラス・サークル ヴィサン合唱祭で 「エフオル賞」受賞

十一月七日(木)横浜みなとみらいホールで開催された「ヴィサン(人生百歳)ジョイント・コーラスフェスティバル」に、東京の「コール・バンダナ」と神奈川の「コール・アマカ」合同で約三十名が参加。三十五団体中、五団体に授与された「エフオル賞」(審査員賞・ヴィサンはこの賞だけ)を受賞しました。

日野原先生の肝いりで、桑原妙子先生を指導者に二〇〇一年にスタートしたサークルですが、毎年春はゴールデンウエーブ、秋はヴィサン合唱祭に参加し、名誉ある賞を何度も受賞。今回は、「ホフマンの舟歌」「草競馬」を演奏し、審査員の講評では「日頃の練習がいかに正しくしっかりされているかがよく分かる。安定した演奏は正に王者の風格、平均年齢からは想像できない透明感のある発声」と絶賛されました。



募集 患者ボランティアの会に 参加しませんか?

「患者ボランティアの会」は難しいシナリオなど覚えなくてよく、事前の説明会に参加し、学校が求めていること、患者ボランティアの役割をしっかりと理解すればすぐに活動に参加できるというのが特徴です。これまでの活動場所は東京医科大学、東京工科大学、首都大学東京、北里大学、聖路加国際大学、延べ四十三名の方が参加されました。この活動にご興味ある方は次の日程で開催されます説明会にご参加ください。

■2020年1月15日(水)、2月12日(水)、3月18日(水) 14時~16時
会場：一番町進興ビル2階

2020年 年間活動計画

- 発足記念フォーラム 6月21日(日)
- 各種催し 年間4回
- 健康講座 10~11月
- 会報の発行 1月、4月、7月、10月
- 社会貢献活動
「いのちの授業」 随時
「患者ボランティア」 随時
- 野外散策・歴史探訪 未定
- 見学・美術館・観劇 未定
- 他会との交流・バスツアー 未定
- 各種サークル活動 毎月

報告

第4回「会員の集い」

「モルゲン、明日」

上映と坂田雅子監督によるトーク

9月25日(水) 明治薬科大学剛堂会館 坂田雅子



山極壽一京大総長と坂田雅子監督(右)



ドイツの旅は、小さな私たちが世界を変えられることができるのだという勇気を与えてくれました。日本でも私たちにできることはまだまだあります。Morgen, 明日は私たち一人ひとりが作るのです。

東日本大震災のあの日、私はベトナムでの枯葉剤被害を訴えた『花はどこへ行った』に続く映画『沈黙の春を生き延びた』の最終編集をしていました。第二次世界大戦中、広島・長崎で原爆の被害に遭いながら、なぜ五十四基もの原発がこの地震国に建設されたのか、その根源を突き止めたく思い、四十年前も前に原発の危険性を訴えていた母、坂田静子の遺稿集『聞いて下さい』を胸に歴史的・地理的に大きな視野で映画『わたしの、終らない旅』を製作しました。さらに、事故後一年あまりで原発再稼働の掛け声が始まった日本と比べ、ドイツで事故三カ月後に「二〇一三年までに原発廃止」を宣言したメルケル首相の決断に感服するとともに日独両国のこれらの違いを知るためにドイツ国中を駆け巡り、都市で、村で、学校で教会で脱原発・自然エネルギーへ情熱を燃やし実践する多くの人々に出逢いました。小さなコミュニティで太陽光・水力・バイオマスなど、手作りの発電を行い、小さな町シェーナウでは市民が送電線を買取り、電力会社を作り、自然エネルギーが着実に根付いている実態取材しました。七十年代にはドイツでも多くの原子力関連施設計画がありました。しかし、小さな村ヴィーデルで起こった反原発運動は農家、主婦達に、学生達が呼応して原発建設阻止に成功し、その後のドイツ各地の反原発・自然エネルギー推進の動きに繋がっていったのです。権威に服従しない、自分で考え自分の足元から始める、過去に目をつぶらず、過去の反省から将来のあるべき姿を倫理的に考える。ドイツを脱原発に導いたのはメルケル首相の力だけではなく、五十年來のドイツ市民の草の根の運動があったからです。戦争への徹底的な反省、それが日本とドイツの違いではないでしょうか。

告知

日野原重明先生の書も特別展されます！

令和元年度特別展

絵のみち・祈りのこころ

—日本画家 後藤純男の全貌—

会期：令和元年11月2日(土)～令和2年1月19日(日)

会場：千葉県立美術館 第1・2・3・8展示室

参加費：65歳以上無料

奈良県の長谷寺、東京都の高幡不動尊に奉納した襖絵を含む、初期から晩年までの作品約60点余と、スケッチや写真など関係資料で構成し、後藤純男の画業を過去最大規模で紹介。さらに、後藤と生前交流のあった日野原重明先生の書約5点を特別展します。2人の文化人の力強い交感を感じていただければ幸いです。



会員の集い

第6回「会員の集い」ご案内 「短歌の楽しみ方と作り方」

講師：歌人 佐佐木頼綱先生 竹柏会「心の花」編集委員

日時：2020年1月29日(水) 14:00～15:30

場所：千代田区一番町29-2 一番町進興ビル2階

参加費：無料 申込み：不要

佐佐木頼綱先生は、現在【NHK短歌】(毎月第2日曜日午前6時～6時25分)の短歌選者です。国学者・歌人の佐佐木信綱氏の曾孫、幸綱氏の長男という生まれながらの歌人である頼綱先生から、初心者にも分かりやすい短歌の楽しみ方、作り方を教わります。



佐佐木先生プロフィール

1979年、東京都生まれ。歌人、編集者。竹柏会「心の花」所属。2012年より「佐佐木信綱研究」編集長。2017年に第28回歌壇賞。2019年より「短歌往来」編集長。現在「心の花」編集委員。

頼綱先生の短歌

意思でまだ操れぬ手を薦のよにゆらりゆらゆらはじめての春
夜の森に星一つずつ灯すごと義父が小道にかける白杖

信綱先生の作詞・唱歌「夏は来ぬ」の出だし
「卯の花の匂ふ垣根に時鳥早も来鳴きて忍音^{しのび}もらす夏は来ぬ…」

(詳細は同封のチラシをご覧ください。)

お知らせ

一般財団法人ライフ・プランニング・センターは9月末をもって「新老人の会」事業を終了しました。ご連絡は下記のEメール、FAX、携帯電話をご利用ください。

●Eメールアドレス=t.shinrojin@gmail.com

●FAX=03-3265-1909

●携帯電話=080-7310-5050 (平日10:00～15:00 世話人が持ち回りします)

●「新老人の会」東京の案内リーフレットができました。

会員増強にご活用いただければ幸いです。

●活動についてご意見・ご要望がありましたらお知らせください。

「新老人の会」東京

会員数489人(397件)

会員募集中!

年会費

個人・家族会員 5,000円

賛助会員 (一口)10,000円

■発行所 日野原重明記念「新老人の会」東京 〒102-0082 東京都千代田区一番町29-2 一番町進興ビル4階

TEL:080-7310-5050 (平日10:00～15:00) FAX:03-3265-1909

■発行人 石清水由紀子

■編集責任者 五百木幸子

■印刷 佐川印刷株式会社